

ディズニープリンセスから見る女性像の変遷

三木 友梨

ディズニープリンセス像は時代とともに移り変わっている。時代によって女性観が変われば、ディズニープリンセスたちの願望や理想も変化し、女性たちにも大きな影響を与える。このことから本論文では、ディズニープリンセス映画で表現されているプリンセス像(女性像)に人々は影響されているのか、アンケート調査を中心に検討した。結果としてわかったことは3つある。1つ目は、ディズニープリンセス作品は価値観や考え方に影響を及ぼしているが、ディズニープリンセスが教えてくれるのは「見た目の美しさ」ではなく、日常生活においても貴重なアドバイスになる教訓であることがわかった。2つ目は、アンケート結果では「新しいプリンセス」よりも「古典的なプリンセス」のほうが人気であったが、好きな理由を聞き分析してみたところ、「理想の女性像」といった面から見てみると、古典的なプリンセスよりも新しいプリンセスの方が、「考え方や自立精神があり、ただ愛されるだけではなく、他人のためを考えて行動できるプリンセスが増えてきて好感が持てる」といったような理由が多く、人々の考え方や価値観に影響を及ぼしていることがわかった。3つ目は、「自律性が伴った美しい人物」、「容姿端麗だけど強い女性」、といったような、古典的なプリンセスがもつ女性像と新しいプリンセスがもつ女性像を併せ持った回答が多く見られたことから、古典的なプリンセスも新しいプリンセスも優しさや美しさ、諦めない勇気などを人々に与え、理想の女性像の在り方を表しているということがわかった。さらに、『アナと雪の女王』は『アナと雪の女王』以前のプリンセス作品との違いが明瞭であるからこそ、現代を生きる女性たちの理想の女性像や本当の幸せとは何なのかといったことについて本作品が反映しているとして、『アナと雪の女王』(2019)に焦点を当て、考察を展開した。